



# ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2019年(令和元年)11月25日号 No.1810

## 目次

■ 2019年1～9月のロシア経済と鉱工業生産	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2019年12月号のご紹介	6
■ トピックス	7
JALがモスクワ～羽田線を就航へ／7	
ロシアは引き続き協調減産に協力する姿勢／7	
名古屋で日ロ外相会談を実施／7	

## 2019年1～9月のロシア経済と鉱工業生産

### はじめに

ロシア連邦国家統計局より2019年1～9月のロシアの主要経済指標が発表されたので、本速報ではそれらを図表にまとめてお届けする。鉱工業生産については特に詳しく紹介していく。なお、2019年1～9月のロシアの貿易統計に関しては、ロシア連邦関税局のデータに基づき、後日より詳しくお伝えする予定である。

統計局発表の速報推計値によると(図表1)、2019年1～9月のGDP成長率は速報推計値で前年同期比1.1%増となった。第1四半期プラス0.5%、第2四半期プラス0.9%と上半期は1%を下回る低調な成長が続いたが、第3四半期はプラス1.7%と成長が加速した。統計局長官の発言によると、農業(5.1%)、鉱工業(2.9%;特に採掘業12.9%、食品5%、医薬品18%など)、小売(3.8%)の成長が第3四半期のGDP成長率を引き上げている。

鉱工業部門の生産指数では(図表3)、鉱業は前年同期比で3.6%、製造業は2.2%増加し、鉱工業全体で2.7%の増加となった。品目別の内訳をみると(図表4)、石油や天然ガス、化学分野、鋼管、トラクター、乗用車、鉄道貨車などで成長がみられるが、タイヤ、ベアリング、コンピューター関連、バスなど生産を減らした品目も見られる。

2019年1～9月の鉱工業生産を連邦管区別・地域別に見てみると(図表5)、連邦管区別データでは極東連邦管区が好調な伸びを示しており、地域別データではヤマロ・ネネツ自治管区が大きな伸びを示した。

経済発展省は2019年のGDP成長率を前年比1.3%増と予測している。2020年については、消費の減速を引き起こすインフレの深刻な低下を理由に、予測を0.3%引き下げて前年比1.7%増に修正した。ロシア中央銀行は2019年が前年比0.8～1.3%増、2020年は1.5～2%増、2021年は1.5～2.5%増と予測している。